

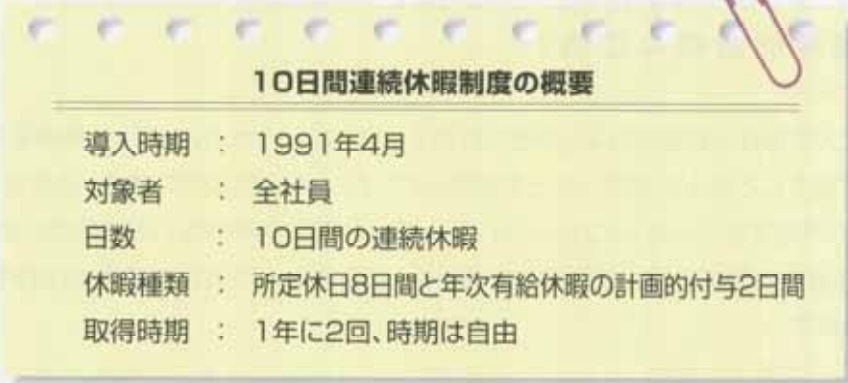
毎年2回、全員が10日間連続休暇を取得

<小売業C社>

【導入の背景と目的】

小売業は、他の産業と異なり、土・日曜日、祝祭日に休暇を取得することはほとんどできません。週休日も交代制で取得しています。また、営業時間が長いため、勤務時間も一定ではありません。家族と過ごす時間も、他の業種に比べて少なく、健康維持の点でも、社員のリフレッシュが必要でした。そこで、職場でのローテーションを調整することによって、年間2回、計画を立てて、交代で10日間の長期休暇を取得するようにしました。

10日間連続休暇制度の概要



導入時期	: 1991年4月
対象者	: 全社員
日数	: 10日間の連続休暇
休暇種類	: 所定休日8日間と年次有給休暇の計画的付与2日間
取得時期	: 1年に2回、時期は自由

【定着・取得促進策の工夫】

○事前に計画作成

新年度が始まる前に個人ごとに予定を立て、職場内で調整するようにしています。部門ごとの「未取得者リスト」を作成し、これをもとに厳しくチェックしています。

○長い年月をかけて休める風土づくりを形成

お互いに休めるよう、休暇中は別の人がフォローするのが当たり前となっています。休める風土づくりを長い時間かけて培ってきたので、長期休暇を取得することについての「後ろめたさ」がない職場となっています。

○給与明細書に残日数を明記

正社員、パートタイマーの給与明細書には休暇残日数を明記しているため、取得状況が把握しやすくなっています。お互いに休めるよう、休暇中は別の人がフォローするのが当たり前となっています。

所定休日で20日の夏季連続休暇

<製造業D社>

【導入の背景と目的】

20日のまとまった休暇を、会社が一斉に取る例は少数です。この会社は、7月下旬から8月のお盆にかけて、毎年一斉に20日間の夏季連続休暇を取得しています。この休暇制度は、現会長のトップダウンで決定しました。会長は山が好きで、この時期、1年の中でもっとも山に良い時期であること、さらに会社の位置する地域の米の収穫期にあたること、米の収穫に続いてお盆（阿波踊り）のイベントが続くことなどから、この時期に連続20日の休暇を設定することとなりました。

20日の夏季連続休暇制度の概要



導入時期	： 20年前
対象者	： 全社員
日数	： 20日間の連続休暇
休暇種類	： 所定休日20日間
取得時期	： 7月29日～8月17日

【定着・取得促進のための方策】

年初に年間計画表を作成し、社員のみでなく、納入業者にも周知しています。電気炉を落としてしまえば、仕事がないので、社内に休みを定着させるのは容易でした。

競合他社がないので、前もって通知し、前倒しで製品の納入をしておけば、納入業者の理解も得られました。

【長期休暇の効果】

休養や健康保持・増進のために利用したり、海外旅行に使ったり、社員それぞれが自由に使い、社員一人一人のリフレッシュには大きな効果があります。

「リフレッシュ休暇」と「フレックス休暇」で心身のリフレッシュ

＜サービス業E社＞

【導入の背景と目的】

セキュリティサービス業では、休暇は交代制であり、土・日曜日、祝祭日の休日や事業場一斉の休暇は取れません。特に現業は深刻です。交代制には、24時間勤務で出勤日が1日おきのもの、夜中心の勤務（例えば午後6時から午前10時）、昼中心の勤務など、勤務時間が勤務場所によって様々です。

この会社も以前は7月21日～10月20日までの間に「特別休暇」を2日間付与し、夏季休暇としていました。この休暇は有給休暇や週休日とつなげて長期に休むことは業務形態から困難な状況でしたので、長期休暇は取れませんでした。1990年代に入り、好景気とともに人手不足が深刻となり、人材確保のために、また、健康管理の面からも休暇制度の見直しをすることになりました。こうした中で、1991年に「リフレッシュ休暇」、1996年に「フレックス休暇」をそれぞれ導入することになったのです。

リフレッシュ休暇制度

導入時期	： 1991年
導入目的	： 心身のリフレッシュを図る
対象者	： 勤続年数5年、10年、20年、30年の者
対象時期	： 7月～翌6月の1年間の中で自由に
休暇期間	： 勤続年数に応じて1週間～4週間
	5年……………1週間
	10年……………2週間
	20年……………3週間
	30、40年…4週間
休暇種類	： 週休日以外は特別休暇